

保護者の皆様  
地域の皆様

世田谷区立千歳小学校  
校長 石川 淳

## 令和6年度の改善の方向について

日頃より本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。令和5年度の本校の取組について学校関係者評価委員会より報告書をいただきました。このご提言を受け、本校の重点目標や取組を検討し「令和6年度の改善の方向について」を作成致しました。

千歳小学校は、伝統として大切にしてきた千歳っ子のよさを伸ばしつつ、これからの新たな時代を切り拓くために必要な力を、さまざまな活動を通して育成していきます。令和6年度は、令和5年度に引き続き、キャリア・未来デザイン教育（地域を生かした学習の一層の充実）、「せたがや探究的な学び」の推進、教育DXの推進を意識し取り組んでいきます。伝統は大切に、よりよく変わること躊躇せず取り組んでいこうと考えています。

### < 教育目標 >

よく考える子ども      思いやりのある子ども      体をきたえる子ども

### < 千歳小ビジョン >

- 子供にとって「通うことが楽しい学校」にする
- 保護者、地域の方々にとって「安心して子供たちを託せる学校」にする
- 教員にとって「教えることで教わり、子供の満足をやりがいにする学校」にする

### < 育みたい児童像 >

- 自ら課題を見つけ、他者とも協働しつつ解決に向けた努力を続けられる児童
- 人を思いやり、主体的に行動して一部でも社会を変えられたと実感できる児童
- 自分のなりたい姿（ゴールイメージ）を思い描き、失敗をおそれずチャレンジできる児童

➡ 「主体と協働を併せ持ち伸びる千歳っ子」の育成

### < 目標を達成するための基本方針 >

- キャリア・未来デザイン教育 —各教科と関連付けた意図的計画的な取り組みの充実—  
「キャリア・パスポート」をもとに、児童が自分らしく生きるためにありのままの自己を受け入れ、なりたい自分の目標を掲げ、他者からの評価を自信に変えて次に進めるような取組の場を学習や生活の場面に計画的に設定する。
- 「せたがや探究的な学び」の推進に向けた取組の充実  
児童一人一人が課題を見付け、仲間と協働しながら自分の考えを深め、表現していく問題解決的な学習活動を各教科等で繰り返し行う。各教科の特質に応じた見方や考え方を明確にして授業を計画し、児童に必要な資質・能力を育成する。
- 教育DXの推進 —1人1台端末を文房具のように活用した学習活動の充実—  
児童が見付けた課題の解決のためにICT機器及び学習支援アプリを駆使し、仲間との共有や統合を通じて知識や理解を深化させる。DXの長所である「いつでも、どこでも、だれとでも」を生かして学校での学習や家庭での学習の充実を図る。

千歳小学校では令和6年度も地域運営学校として、学校、家庭、地域の皆様と、育みたい児童像・そう在りたい学校像（千歳小ビジョン）を共有し、それぞれの役割をそれぞれが自覚し、同じ目標に向けて取り組んでいきたいと思いをします。

充実した教育活動を推進できるよう教職員一同誠心誠意取り組んでまいりますので、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## <さまざまな教育課題への取り組み >

### 【学習指導】

- 「特別の教科 道徳」を要(かなめ)とする道徳教育、家庭・地域社会との連携と協働を生かした心の教育を充実させる。
- 総合的な学習の時間において、教科横断的かつ探究的な時間を創出する。
- 一人一人の課題に応じた基礎的な体力の向上に向け、発達段階に応じた目標を設定し、到達の状況を把握し、年間を通じて体のバランスを調整する力の向上に取り組む。
- 外部ゲストティーチャーを積極的に講師に招き、投げ方教室や障害走の演示、アドバイス等人的資源を有効に活用し、運動やスポーツを楽しむ意欲を向上させる。
- 異学年や他校、地域社会等と広くかかわる特別活動を充実させる。
- ワールドルームけやき（日本語学級）で、実生活に直結する日本語の基礎を習得する。また、日本の伝統や文化を理解して日本の生活に早期に馴染めるような取組を行う。
- 児童が自国の国民としての権利や義務についての理解を深め、選挙権の話題を取り上げる等、社会の形成者として主体的に社会参画しようとする資質や能力を育成する。
- 必要に応じて教科担任制の拡大を図り、学年全体を指導する意識をもち、複数で児童の変容を見取る。

### 【生活指導】

- ◎ 生徒指導の定義「生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができ存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。」
- ◎ 即時性と継続性をもって指導や援助に当たる。深い学びも安定と安心が担保された学校生活から始まる。
- 安全指導を徹底し、「自分の身は自分で守る」という意識を高める。
- 児童の個別の事情や状況を的確に把握しながら内省を促すような指導を行う。
- 日頃とは異なる指導、個別に呼んで指導した日には教員が先に保護者への一報をする。
- 千歳小学校いじめ防止基本方針に基づき、全教職員がいじめは絶対に許されないという認識を徹底する。ふれあい月間や学校生活アンケートを実施し、事案を発見した際には「千歳小学校いじめ防止対策委員会」を即時開き、保護者とも協力して早期解決する。
- 登校渋りや不登校に傾きつつある児童を「Web Q-U」の結果を役立てて早期に発見し、初動対応を開始する。
- 配慮を要する児童の情報を全校で共有し、定期的な家庭連絡によって関係性を絶たないようにする。また、関係諸機関と連携し、問題解決の方策を考案・実施する。
- 「SOSの出し方」の指導や、SC との連携を通して、不安な気持ちを表出できるようにする。また、長期休業後には学校生活に対する期待感を高めるかわりを実施する。

### 【特別支援教育】

- 保護者の理解を得ながら、個別の教育支援計画や個別指導計画を作成し、個に応じた支援の充実を図る。
- 特別支援教室（すまいるルーム）と相互連携を一層充実させ、すまいるルームで得られた知見は全児童の指導にも活用し、チームとして取り組む。
- SC や SSW、関係諸機関との連携を進めて状況の改善に向けた方策を実施する。
- 特別支援コーディネーターが中心となって当該児童の状況や背景、保護者の意向を周知し、ケーススタディ等の企画運営を通して全教員の児童理解、支援技能を向上させる。

### 【地域連携】

- 「ふれあいデー」や「あいさつ・思いやり週間」を設定し、ふれあい活動を通して家族や先生、友達同士の心のつながりを深め、コミュニケーション能力を身に付けさせる。
- 学校運営協議会では、漢検やリアル職業調べ、小1 サポーター等各プロジェクトチームが地域支援コーディネーターとともに子供たちの活動を支える。
- P T A や学校支援地域本部、おやじの会の協力を得て地域講師によるものづくりや体験学習を積極的に取り入れる。児童に望ましい勤労観や職業観を育み、自らの生き方を考え、希望をもって将来の進路を選択できる能力の素地を養う。
- 学校情報の発信は学校、学年だよりはもとより、すぐーるや HP 学校生活の様子コーナー等を活用して学校生活への理解を促進する。

### 【働き方改革】

- 授業の余剰時数は最低限とし、児童個々の習熟度や理解度をていねいに見取り、柔軟な授業コマ(時間割)への変革を図り「創造的な余白」を生み出す。
- 学校情報の発信は学校、学年だより等、すぐーるの家庭連絡機能や Teams のグループ連絡機能を有効活用し、学校と家庭間の連絡を短時間かつ緊密に行う。
- 校内の会議資料や提案文書は起案時を除いて Teams の「千歳職員室」に掲載し、タブレットを持参して会議や研修を行う。これらを通してペーパーレス化を推進する。
- 学校が行える事、校長裁量が可能な事を整理し、改革アイデアを積極的に実施する。
- 経営会議、企画会の位置づけを確認し、案の立案→上席の助言→案の洗練→提案→決定という手順を明確にする。不要な行き来は極力なくし、意思決定を遅滞なく進める。

### 【学び舎】

- 学び舎の日に学習習得調査の結果や生活指導の状況、校内研究の概要、英語の指導についてなど各校の情報を持ち寄り、授業改善や重点化したい部分を共有する。
- タブレットを活用したりリモート交流により、体育を含む教科等の学習で中学生がアドバイスしたり、小学生から質問できる時間をとったりする交流形態を模索する。

### 【千歳小吹奏楽団（課外）】

- 保護者の協力も得て児童の芸術に対する感性を涵養するとともに、校内や地域、コンテスト等での演奏活動を通して、貢献感や達成感、学校を誇りに思う気持ちを育む。
- 参加児童は相互に年長者・年少者へのかかわり方を学び、よりよいコミュニケーションの在り方を各学年・学級に波及させる。